



Public Psychology Lab., University of Tsukuba

2024年3月

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期 スマートモビリティプラットフォームの構築/ ナラティブで編まれる地域交通コミュニティ形成と 人材育成プログラムの研究開発

国立大学法人筑波大学
独立行政法人国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
一般社団法人北海道開発技術センター

■ 1.本コンソーシアムの取組概要

- 背景・目的
- 研究開発の全体概要
- 工程表
- 目標

■ 2.研究開発成果

⑫リ・デザインに資する車両、インフラ等の要件抽出

⑬自動走行の社会システム化

⑮-2地域モビリティのあり方を考える地域コミュニティ構築

⑮地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査（アクションリサーチ）、普及展開活動

⑮-1モビリティナレッジセンターの設立とカンファレンスの開催

⑲サービスの社会実装に向けた人材育成

■ 3.今後の方向性

1.事業概要

背景

- 日本の地域公共交通の現状は閉塞感を禁じ得ず、大きな社会システム改革が必要であることは論を俟たない。ここで、ホワイト・エプストンは精神科を受診する患者を支配している一般的な物語を「ドミナント・ストーリー(思い込みの物語り)」と呼んだ。
- しかしこれを「物語」と捉えるなら、覆すことができるとエプストンはいうのである。ナラティブ・アプローチは、苦しみの源泉となっているドミナント・ストーリー(思い込みの物語り)に支配され硬直化した心理状態を探りながら、「オルタナティブ・ストーリー(代替の物語り)」つまり「別の物語」を創生し、発見することで心理状態の好転のきっかけを掴むことを目指すものである。ナラティブ・アプローチは、近年、医療・臨床心理やソーシャルワーク、キャリアコンサルティング、司法の場で活用されている。
- そこで、地域公共交通のドミナント・ストーリーを「物語」として捉え直し、新技術の可能性も踏まえたオルタナティブ・ストーリーを模索することこそが、地域公共交通をより善くするためのコミュニティ形成の「きっかけ」となると、提案者らは考えた。これは本研究提案の根幹をなすコンセプトである。

1.事業概要

目的

課題12 リ・デザインに資する車両・インフラ等の要件抽出

国内数か所でのグリスロ／自動運転の実証運行に基づいて
車両・インフラ要件の検討やビジネスモデルの検討を進める

課題13 自動走行の社会システム化

自動走行車両の社会的受容性評価に関する統一性指標の構築を目指す
特に車両エクステリアに着目した調査及びエクステリアコンペを開催する

課題15-2 地域モビリティのあり方を考える地域モビリティ構築

地域モビリティのあり方を考える地域コミュニティ構築に向けて
データコミュニティ形成やモビリティ人材の態度行動変容分析等を行う

課題18 地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査

アクションリサーチに基づきスマートモビリティ実装に向けた地域類型化を行い、
地域特性ごとのガイドライン作成及び普及展開を目指す

課題15-1 モビリティナレッジセンター設立とカンファレンスの開催

地域モビリティの活性化等に向けてノウハウ蓄積・人材育成のハブとして
求められる機能要件・運用モデルを検討しセンター設立を目指す

課題19 サービスの社会実装に向けた人材育成

サービスの社会実装において求められるモビリティプロデューサーの育成に向けて
その資質要件整理・育成プログラム構築・カンファレンス開催を行う

都市空間やモビリティサービスのあるべき姿として、
「自由に自立して安全・快適に環境・他人・まちに優しく皆が、モノが、サービスが移動できるモビリティディバイドない社会」
の実現を目指す

1.事業概要

研究開発の全体概要

ナラティブアプローチ

■ コンソーシアム内共通テーマ

“アクター”として地域に入り込むことで外界からは見えないノウハウやプロセスを体験
それらの知見を“物語”として可視化しモビリティナレッジセンターに蓄積・活用

実証フィールドでの取組

課題 12 課題 13 課題 18 課題 15-2



ナラティブ
アプローチで
物語を蓄積



ノウハウや
人材の活躍

モビリティ
ナレッジセンター

課題
15-1



強み

人材育成
プログラム

課題
19

1.事業概要

工程表

全体
アウトプット

- プロデューサー人材・地域コミュニティの育成・実装
- 物語化された実効性、応用性の高い知見の蓄積
- 持続展開の仕組みづくり（ビジネスモデル検討）

⑫グリスロ自動運転実証とビジネスモデル検討

●車両・インフラ検討

●実証実験、効果検証

●車両、ビジネスモデル検討

⑬自動走行エクステリア要件の抽出／車両コンペ開催

●指標、エクステリア検討

●コンペ

●指標整理

⑭アクションリサーチによる地域類型化とガイドライン作成

●地域類型化

●モビリティ実装のアクションリサーチ

●ガイドライン+展開活動

⑮モビリティプロデューサーの要件検討・育成プログラム構築

●ナレッジセンター機能要件

●人材育成プログラム検討

●カンファレンスでの試行のフィードバック

⑯-1モビリティナレッジセンターの設立とカンファレンス開催 ⑯-2地域モビリティのあり方を考える地域コミュニティ構築

●育成制度、認証制度づくり

●実践結果の分析、フィードバック

●ナレッジセンター+カンファレンス設立、開催

●地域コミュニティ、データコミュニティづくり

1.事業概要

目標

【S I P 第3期中間時点（2025年度）】

- ⑫モビリティ支援技術仕様の具体化
- ⑮モビリティナレッジセンターの開設

【S I P 第3期終了時点（2027年度）】

- ⑬数都市でのモビリティ支援技術の実装に向けたリファレンスロードマップの公開
- ⑱地域モビリティサービス社会実装ガイドラインの策定
- ⑲地域モビリティプロデューサー15人以上育成

実証運行①：北海道当別町（実証フィールド：地方・観光交通）

◆2023年度（計20日間運行）

- ・ 運行日：（関係者のみ試乗）2023年6月28日（水）・29日（木）
（一般試乗）6月30日（金）～7月17日（月・祝）
- ・ 自動運転車両：ARMA 1台
- ・ 運行時間：10：00～16：30
- ・ 運行ルート：JRロイズタウン駅～ロイズタウン工場（500m）
- ・ 運行頻度：毎時間3本～5本のシャトル運行

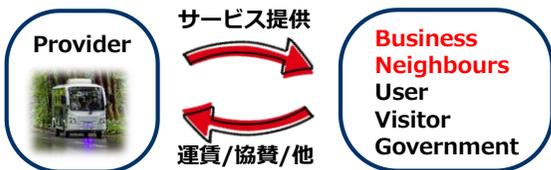


◆2024年度（予定）

- ・ 運行日：2024年8月～9月（連続した30日間程度を設定）
- ・ 自動運転車両：EVO 1台
- ・ 運行時間：10：00～16：30
- ・ 運行ルート：JRロイズタウン駅～ロイズタウン工場～道の駅とうべつ（2,200m）
- * 国道（337号）を横断する手前の交差点において路車協調の実証を希望。

本研究開発事業において、自動運転実証の前後及び期間中に、

- **社会受容性の計測**（実証運行前後）
- **ビジネスモデルの検討**（実証運行期間中）
- **車両、路線、結節点等**（実証運行後）の評価を実施。



モデル	価値	形式	アプローチ
P to B	送客	協賛金 ネーミングライツ	効果周知
P to N	暮らしやすさ	募金・玉垣料	理解促進
P to U	移動手段	運賃	利用促進
P to V	移動手段	運賃・入域料	利用促進
P to G	地域の持続性	補助金・赤字補填	理解促進



2.研究開発成果

⑫リ・デザインに資する車両、インフラ等の要件抽出

実証運行②：青森県十和田市（実証フィールド：地方・観光交通）



◆2023年度（グリスロ運行）

- 運行日：2024年1月～3月のうち金・土・日を中心に合計で22日間。
- 車両：TAJIMA-NAO-8J（改良車） 1台
- 運行時間と頻度：9：30～11：30、12：30～14：30の2本
- 運行ルート：奥入瀬溪流館～雲井の滝
- 実施内容：グリスロで移動しながらのトレッキングバスツアーとして実施。冬ならではの氷瀑など景勝スポットではフィールドに降りて、ガイドと一緒に冬の奥入瀬を楽しみます。
- 参加人数：2024年2月19日現在 約140名

◆2024年度（自動運転運行予定）

- 運行日：2024年10月21日～27日の7日間。
- 車両：未定（小型車両を想定）
- 運行時間と頻度：平日 10：00～16：00、休日 9：00～16時 1時間に1本
- 運行ルート：石ヶ戸休憩所～子ノ口 約9km
- 実施内容：奥入瀬の観光コンテンツを掛け合わせた自動運転の社会実験を検討中

<https://winter.greenslow-oirase.com/>



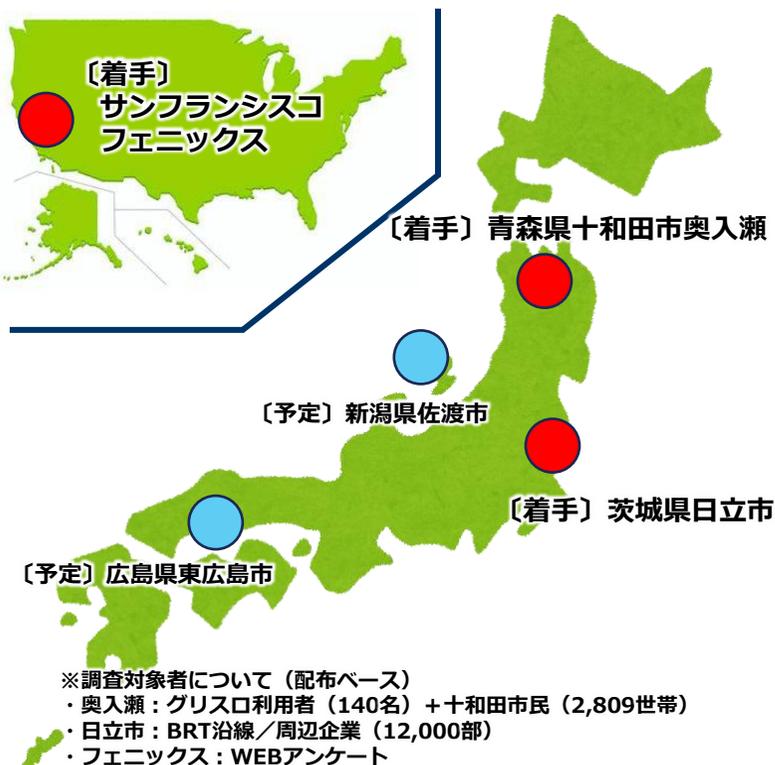
左上：関係者WS（部会）／下：Webページ開設・ツアー募集

アンケート実施：社会受容性を計測する「統一指標」の提案



- 自走走行バスの**社会受容性指標案（統一指標化）**を構築（LV2以上想定）
- 複数地域で実証運行モニターアンケートに適用し指標の妥当性を検証する

＜調査実施地域（予定含む）＞



＜社会受容性の統一指標として設計した調査設問の例＞

設問	項目／選択肢
自動運転システムの技術がどの段階に達したら社会に導入すべきだと思いますか？	「完全に安全」になってから導入すべき 「人間より安全」になってから導入すべき 「人間と同程度に安全」になってから導入すべき 「人間未満の安全性能」でも導入すべき いかなる状況でも「導入すべきではない」
自動運転車の以下の項目について、あなたはどのくらい同意しますか？	自動運転車が共用であれば使いたい 自動運転車が個人利用であれば使いたい 自動運転車は使わない 自動運転バスを●●市に導入することに賛成である
自動運転バスによる移動について、以下の項目にあなたはどのくらい同意しますか？	移動が楽しくなる／移動がリラックスできるものになる／ 移動が快適になる／移動が安全になる／移動が苦にならない 移動が速くなる／移動が安価になる

エリア 募集中

自動走行バスの社会受容性統一指標アンケートの対象としてご協力いただける地域を募集しています。**実証を予定しているがまだ実施まで猶予がある地域は、with-without調査に対象となるため特に強くご協力をお願いします**

自動運転バスのエクステリア要件の検討

■インタビュー調査

どの自動運転バスが好き？
理由は？



どの自動運転バスがきらい？
理由は？

インタビューであたりをつけた上で

■WEBアンケート調査

0. ニュートラル 1. かわいい 2. 弱い



3. カッコいい(速い) 4. 近未来 5. こわい(強い)



■車両メーカー、ソフト開発会社へのヒアリング調査 : コストや難易度を把握

自動運転バスのエクステリア要件提案

■コンペ開催 : 具体のイメージ例を提示

すべてのプロセスをエピソードとして記録・物語化し、MKセンターに蓄積・共有

アンケート調査で使用する車両

1. ニュートラル



2. かわいい



3. 弱い



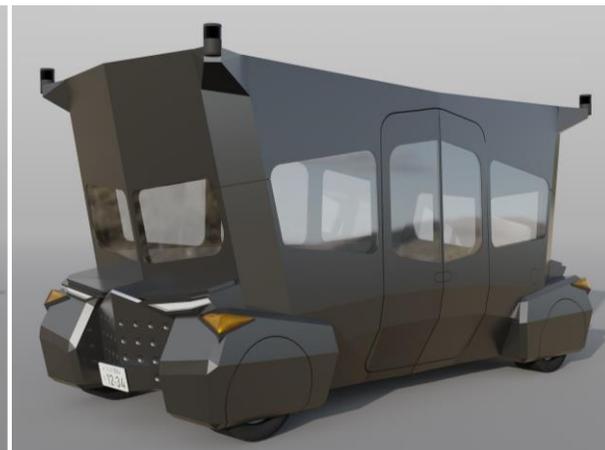
4. 速い



5. 近未来



6. 強い



アンケート調査項目

カテゴリ	質問内容
属性	年齢・性別・居住地
移動選好	電車/バス/自家用車/自転車/徒歩/
賛否意識	自動運転バスの運行に賛成ですか
利用意向	自動運転バスを利用したいと思いますか
AVs信頼	AVs技術信頼/AVs社会システム信頼/AVs開発企業信頼
リスク認知	自動運転バスが危険に感じていますか 自動運転バスが人を傷めますか
車両選好	好き
乗車意図	乗りたい
印象評価	かわいい/かっこいい/速そう/近未来的だ/強そう/弱そう/こわい/ 親しみやすい/上品/洗練された/危険な/シンプルな
地域	自分の地域になじ
AVs態度	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転バスを見かけたらちょっと「うれしい」と思う 自動運転バスを見かけたら「運が悪かった」と思う 自動運転バスを見かけたら「しかたない」と思う
AVs配慮行動意図	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転バスを見守ろうと思う 自動運転バスが走る路線では路上駐車を控えようと思う 自動運転バスがきたら道を譲ろうと思う 自動運転バスが来たら「追い抜きたい」と思う
渋滞	怒りを感じる/イライラする/不愉快だ
立往生	怒りを感じる/イライラする/不愉快だ

好き

運悪かった

うれしい

見守ろう

譲ろう

しかたない

路駐控えよう

追い抜きたい

7件法

結果 Avsへの態度と配慮行動の基礎集計

車両の種類とAVs態度の平均値



態度 配慮行動	車両名		ニュートラルな車両		かわいい車両		弱い車両		速い車両		近未来な車両		強い車両	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
うれしい	3.55	1.56	4.04	1.66	3.87	1.57	4.02	1.58	3.54	1.72	3.32	1.65		
運が悪い	2.95	1.43	2.81	1.43	2.86	1.44	2.82	1.39	3.59	1.69	3.21	1.60		
仕方ない	4.65	1.41	4.78	1.44	4.61	1.43	4.57	1.40	4.59	1.49	4.47	1.50		
見守ろう	4.45	1.40	4.62	1.45	4.52	1.40	4.52	1.39	4.32	1.48	4.21	1.49		
路駐控えよう	4.61	1.45	4.67	1.48	4.62	1.48	4.65	1.44	4.55	1.53	4.53	1.49		
譲ろう	4.43	1.48	4.58	1.48	4.51	1.46	4.47	1.47	4.40	1.52	4.33	1.53		
追い抜きたい	3.63	1.66	3.56	1.70	3.54	1.65	3.53	1.65	3.06	1.56	3.63	1.67		

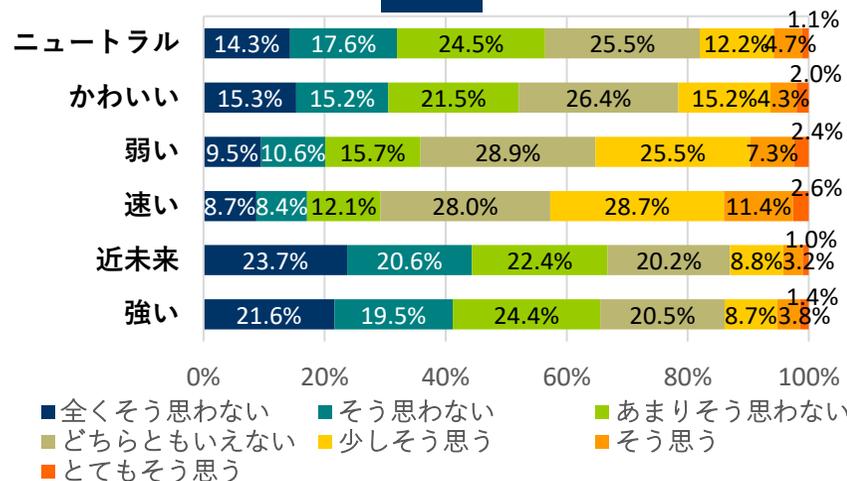
6車両で最もポジティブ・ネガティブ

性別 好きな車両

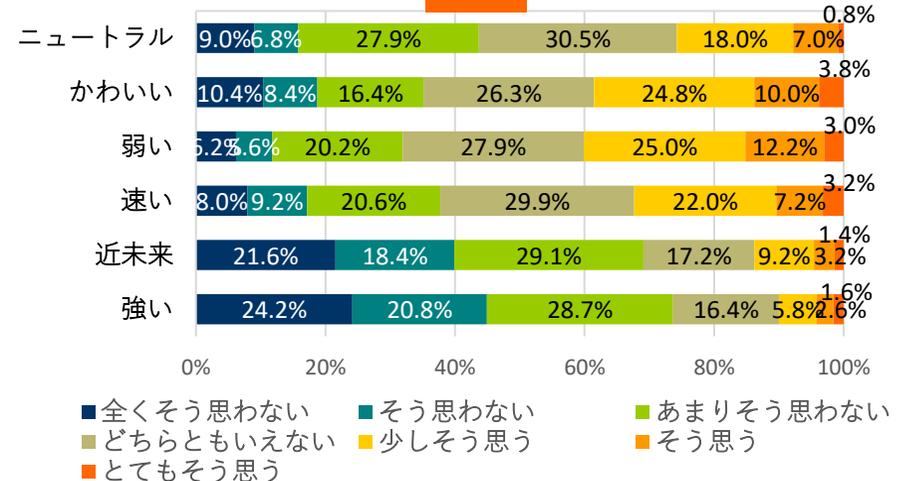
6車両に対する「好き」の男女のt検定

車両名	男性 N=999		女性 N=501		t値	有意確率
	M	SD	M	SD		
ニュートラル	3.22	1.430	3.66	1.333	-5.701	<.001**
かわいい	3.32	1.499	3.92	1.555	-7.207	<.001**
弱い	3.82	1.473	4.08	1.409	-3.334	<.001**
速い	4.04	1.490	3.83	1.436	2.640	<.001**
近未来	2.83	1.460	2.89	1.445	-0.733	0.464
強い	2.92	1.475	2.73	1.410	2.404	0.016*

男性



女性



今後、色・ラッピングの評価もしていきたい

@北海道上士幌町



@岐阜県岐阜市



<https://www.chunichi.co.jp/article/825760>

@広島県呉市



@茨城県境町



@茨城県境町



@北海道当別町



この地域になじむ車両か？

R5の検討状況

◆2023年度

●地域モビリティのあり方を考える地域コミュニティの試行運用

広島県庄原市：官民の地域交通のプレーヤーをメインにしたコミュニティ

- ・地域内の交通関係者
(自治体・事業者・
経済団体・観光DMO等)
- ・地域外の関係者
(自治体・交通事業者・
電機メーカー等)
- ・毎月1回開催，それぞれが
データを出し合って議論

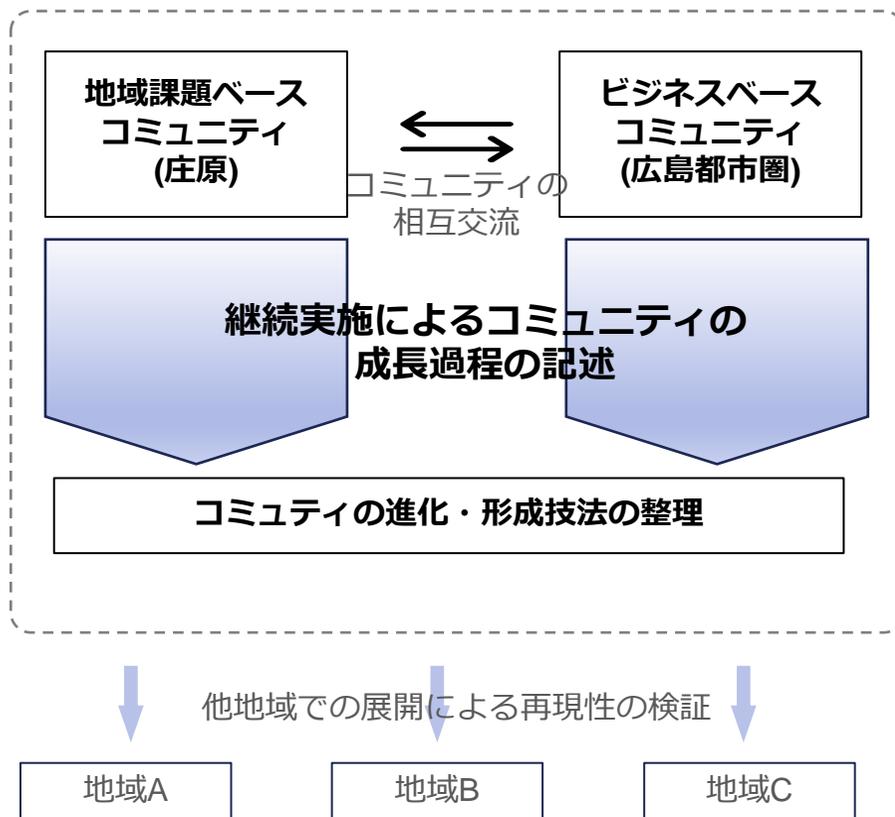


広島都市圏：民間を主体に，交通ビジネスからニーズとシーズ（新技術）のマッチング等，新事業開発とビジネス化を議論

- ・広島都市圏の交通関係者
(鉄道・バス・タクシー・航空)
- ・交通施設運営者
(バスターミナル・空港)
電機メーカー等)
- ・シェアモビリティ関係者
(通信・ソフト開発・
新モビリティシェア)
等
- ・2-3ヶ月に1回実施



◆2024年度以降



2.研究開発成果

⑱地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査（アクションサーチ）、普及展開活動

R5の検討状況

◆2023年度

●モビリティ活用地域事例収集



<自動運転関係>

福井県永平寺町、長野県塩尻市、群馬県前橋市、北海道当別町、岐阜県岐阜市、兵庫県三田市 等

<グリスロ・その他>

青森県奥入瀬地域、新潟県佐渡市、広島県庄原市、富山県朝日町 等

●代表事例整理

- ▶地元企業が主体となって取り組むケース→北海道当別町
- ▶地元の組織・団体が主体となって取り組むケース→広島県庄原市
- ▶外部の企業が入り込んで取り組むケース→富山県朝日町
- ▶地域交通以外の予算と連動させるケース
→青森県十和田市奥入瀬地域

●ガイドラインの草案検討



- ▶背景、課題
- ▶地域モビリティ活用のポイント
例：〇〇タイプ地域
→〇〇が課題、〇〇から進めて〇〇な展開へのプロセスが必要
→〇〇県〇〇地域の取組が参考となる
始め方ガイド 議論の場づくりのコツ/スモールスタートの手法
- ▶活用ストーリー 〇〇な地域の代表事例、物語・人材

◆2024年度以降

エリア 募集中

モビリティ活用地域として事例収集等の対象としてご協力いただける地域を募集します。特に本コンソにない都市部等での取組地域からの協力を強くお願いいたします

- 地域インタビュー
- アンケート調査

- 他コンソとのガイドラインとりまとめ方針相談

- ガイドライン検討・とりまとめ

- アクションリサーチ/実践支援

- 普及展開活動

2.研究開発成果

⑱地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査（アクションサーチ）、普及展開活動

事例収集・代表事例整理

地元企業が主体となって取り組むケース：
北海道当別町



ROYCE'

外部の企業が入り込んで取り組むケース：
富山県朝日町



・HAKUHODO・  ノッカー

地元の組織・団体が主体となって取り組むケース：
広島県庄原市



地域交通以外の予算と連動させるケース：
青森県奥入瀬地域



▣ ガイドラインの草案検討：主旨の整理

①課題認識・整理の基本スタンス

- ・自動運転等の色々な実験実施してもうまく続かない
⇒みんなで支えていける形を、どう徐々につくっていくか（地域特性踏まえ）
⇒関係者で無理なく共有できることから、つないでいくことが必要

②地域バリエーションの考慮

- ・状況により、動かしていくときのポイント・留意点異なる
⇒的を得た切り口で分類しつつ、事例を整理・紹介
⇒ナラティブをベースに、情報タグ付け等を工夫

<切り口イメージ>

- 地域の物理的な特性
 - 人口密度、拠点施設集積具合
 - 活動組織拠点の存在 等
- 主要な関係者
 - 行政の関わり具合
 - 交通事業者・関係組織との連携具合
 - 民間組織の関わり具合 等

③コミュニティ状態の段階・フェーズの考慮

- ・取組の段階によりポイント・留意点異なる
⇒展開モデルを整理

※モビリティでの地域イノベーションのような期待感も、持てるものにもすることも考慮？
先進事例での社会インパクト・展開状況の可視化しつつ、理想像を考えてみる？
期待したい、他分野での展開例なども参考に、情報整理？

コミュニティ形成の
ポイントを整理

2.研究開発成果

⑱地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査（アクションサーチ）、普及展開活動

☒ ガイドラインの草案検討：構成イメージ

項目		概要	備考
目的	地域コミュニティの課題・これから必要なこと（価値観）	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減、人手不足、赤字補填... ・どのように支えるコミュニティを作っていくか？ ・... 	
視点の整理	地域交通マネジメントにおけるコミュニティ形成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな分類 ⇒地域特性、主体パターン等でプロット ・主なタイプ毎に、始める・進める際のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・下記事例、その他から分析、整理 ・診断チャート等での整理も検討
	継続・拡大におけるポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していく上での展開パターン ⇒フェーズの変化をモデル的に整理？ ・主なフェーズでのポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・下記事例、その他から分析、整理
中心コンテンツ	事例のストーリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ナラティブストーリー ⇒奥入瀬ストーリー ⇒当別ストーリー ⇒庄原ストーリー ⇒朝日町ストーリー ⇒その他ショートエピソード 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事例について、今後ヒアリング、アクションサーチを進め物語として整理 ・上記ポイントへの逆引き等が可能な整理を付加 ・HPでは、全体フローをクリックするとエピソードが見える形などを検討
(仮)今後	成熟、新たなフェーズに向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・このような展開が、次のまちづくり・国づくりにつながるかも、ということ海外事例なども交えて整理 	

2.研究開発成果

⑱地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査（アクションサーチ）、普及展開活動

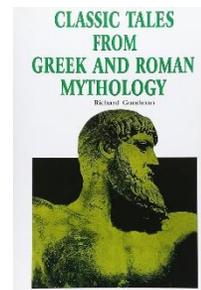
今後の分析・検討イメージ

○事例インタビュー・アンケート等

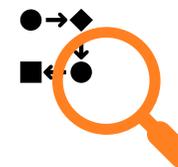
- ・資料整理、キーマンへのヒアリング（IBSコンソとも連携し、ショートエピソード的なものも含め、事例を効果的、効率的に収集）し、物語を整理

立	立	プレイヤーごとの動き					備考
		概要	プレイヤーごとの動き				
			行政担当	交通事業者	商工会議所	有識者	
	立ち上げ、スタート (HO)						
○(H)	○(H)	チャレンジ・実験①					
		振り返り					
○(R)	○(R)	チャレンジ・実験②					
		振り返り					
○(R)	○(R)	ビジョン整理					
		...					
		...					

物語化



整理・分析



○ガイドライン（1.0）とりまとめ

- ・エピソード横断的な分析、知見の整理
- ・診断チャート、地域ごと・フェーズごとのポイントの整理
- ・HP上で情報公開

○アクションリサーチ・実践支援

2.研究開発成果

15-1モビリティナレッジセンターの設立とカンファレンスの開催

機能要件検討：組織・コミュニティ事例整理、ナレッジセンター立ち上げ

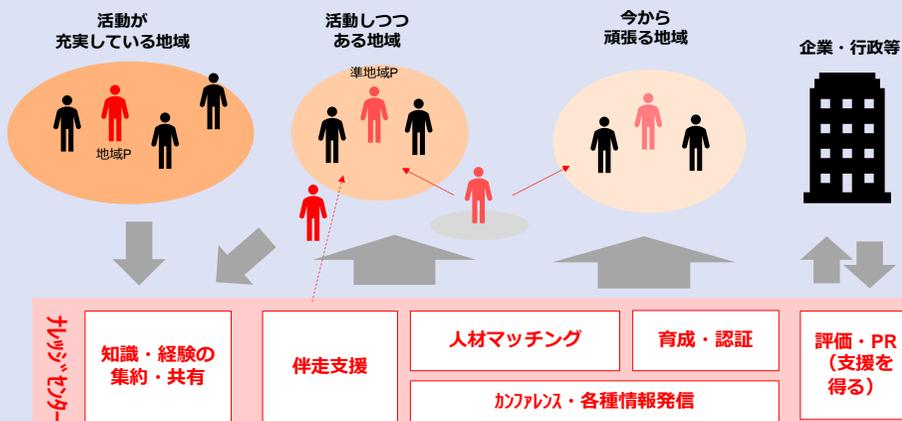
◆2023年度

●組織・コミュニティ事例整理

- ・HPプラットフォーム系▶公共交通のトリセツ
- ・人材育成系▶塩尻市KADO
- ・組織系▶JR東チームICHI 等

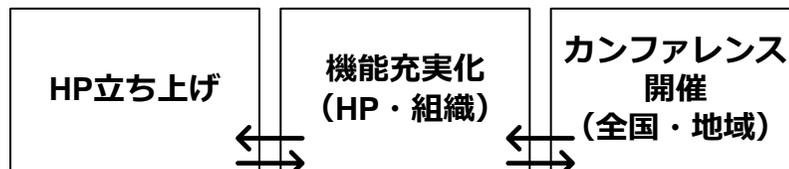
●ナレッジセンター機能要件仮説（整理中）

- ・ナレッジ機能▶知見の集約、物語の集約
- ・活動支援機能▶地域伴走支援、活動人材育成、人材マッチング
- ・発信・連携促進機能▶カンファレンス、HP（※次ページイメージ記載）
- ・活動継続の仕組み▶評価制度やPR活動による自走化支援の獲得



◆2024年度以降

- 海外事例分析
- 組織ヒアリング
- 機能要件再整理
- 知見・物語の蓄積



ビジネスモデル化

物語等 募集中

モビリティ・ナレッジセンターに蓄積していくノウハウや知見、物語を募集します。成功体験だけではなく失敗談からも学べることは多いので多様な物語をお待ちしています

2.研究開発成果

⑮-1モビリティナレッジセンターの設立とカンファレンスの開催

モビリティナレッジセンターの参考になる既存Webサイト等の調査

Webコンテンツ配信



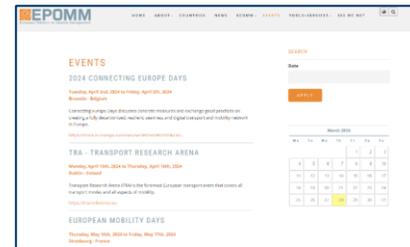
地域経公共交通のトリセツ
<https://kotsutorisetsu.com/>



Note 広島県熊野町「熊野みらい LABO 公式」
<https://kumano-town.note.jp/>



LIGARE
<https://ligare.news/>



EPOMM「Events」
<https://epomm.eu/events>

メールニュース配信



JCOMM「ニュースレター」
<https://kotsutorisetsu.com/>

セミナー・カンファレンス告知

人材紹介・マッチング



中部運輸局「地域交通マネージャー」
<https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/manager/index.html>



総務省「地域情報化アドバイザー派遣制度」
https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/manager.html



環境カウンセラー
<https://edu.env.go.jp/counsel/>

人材育成プログラム開催



持続可能なまちと交通をめざす再生塾(NPO法人再生塾)
<https://www.saiseijuku.net/>

☒ モビリティナレッジセンターWebサイト 現時点の機能案

機能案

1. ブログ形式によるコンテンツの配信
(物語化したエピソード, 人物・団体紹介, 動画, 短編漫画, 書籍紹介等)
2. セミナー・カンファレンス情報の告知
(各コンソの主催イベントおよび国内セミナー情報が対象)
3. メール配信
(HPの更新情報やセミナーカンファレンス情報が対象)
4. 世界のモビリティニュース配信
(各コンソへのキーワード選定を依頼, 配信はWebサイトまたはメールを検討)
5. 地域の悩み事相談
(人材紹介と問い合わせフォーム等を活用した人材マッチング)

その他のコンテンツ候補:e-Learning,地域モビリティガイドライン・政策Tipsの公開等

モビリティナレッジセンターのWebサイトで掲載を検討している内容は、
コンソを横断した内容が想定されているため、各コンソからの情報取りまとめが必要となる。



2.研究開発成果

⑬サービスの社会実装に向けた人材育成

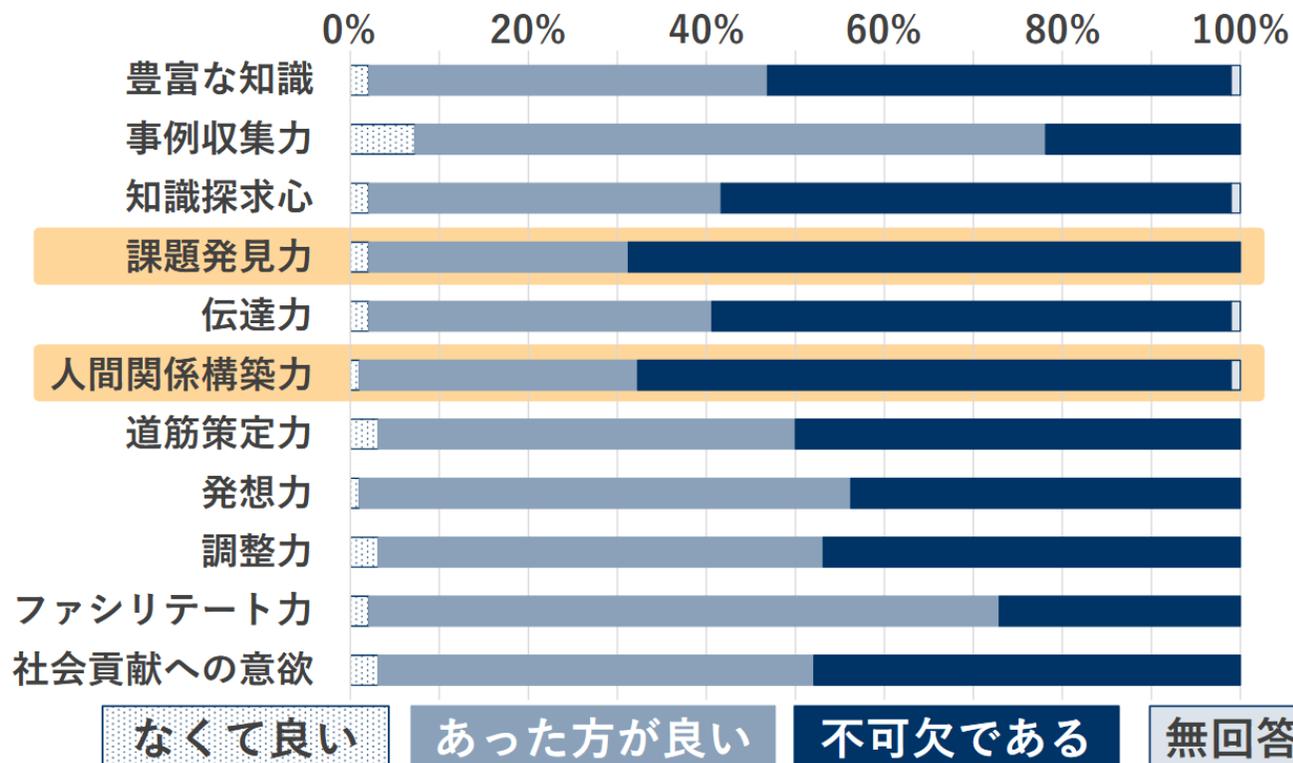
人材育成研究

どのような人材が
求められているのか

理想人物はどのように
キャリアを形成したか

求める人材と育成の場
は整合しているか

参考となる育成の場は
どのプログラムか



※交通関連分野との関わり年数を0年と答えた回答者を削除したn = 96

人材育成研究

どのような人材が
求められているのか

理想人物はどのように
キャリアを形成したか

求める人材と育成の場
は整合しているか

参考となる育成の場は
どのプログラムか

調査対象者

- JCOMM質問紙調査で名前が挙がった35名のうち、以下に調査を実施

1人目 (S1)	井原雄人先生 (早稲田大学)
2人目 (S2)	大井元揮氏 (北海道開発技術センター)
3人目 (S3)	小美野智紀氏 (ドーコン)
4人目 (S4)	村尾俊道氏 (持続可能なまちと交通をめざす再生塾)
5人目 (S5)	牧村和彦氏 (計量計画研究所)
6人目 (S6)	浅見知秀氏 (みちのりホールディングス)
7人目 (S7)	太田恒平氏 (トラフィックブレイン)
8人目 (S8)	東徹氏 (システム科学研究所)
9人目 (S9)	神田佑亮先生 (呉工業高等専門学校)
10人目 (S10)	若菜千穂氏 (いわて地域づくり支援センター)

※より具体的には、35名から、個人属性や関係者から見たときのタイプの違い、つての有無をもとに、SIP第3期「スマートモビリティプラットフォームの構築」の筑波大コンソのメンバーに候補を絞り込んでもらい、その中から実施した

候補者インタビュー調査の内容 (再掲)

- 「地域の公共交通課題の解決を担う人材」の理想像
- 1)を育成するために必要だと考える事項
- 1)の育成に向けた、理想に近い人材育成の取組みとその理由
- 1)で答えた理想像を自身が育成するなら、どのように育成する (している) か

- 何を原動力として、現在のような活動を続けているのか、そのキャリアの経緯
- 現在のキャリアに影響を与えた書籍、人、出来事
- 5)の過程における、苦労話・悔しい経験・うまくいかなかった経験
- 7)から、いかにリカバーしたか

人材育成に向けた取り組み速報2

「地域の公共交通課題の解決を担う人材」 としてイメージされた人物は何を想う？

2023年9月調査で**実名があがった17名**にインタビュー予定。
2024年1月時点で6名に実施済み，分析中

インタビュー結果は
ナラティブ／物語化し
MK(モビリティ・ナレッジ)センター
に格納・共有予定

■インタビュー項目： 半構造化インタビュー

- 1) 「地域の公共交通課題の解決を担う人材」の理想像
- 2) 1)を育成するために必要だと考える事項
- 3) 1)の育成に向けた，理想に近い人材育成の取組みとその理由
- 4) 1)で答えた理想像を自身が育成するなら，どのように育成する(している)か
- 5) **何を原動力**として，現在のような**活動を続けているのか**
- 6) 現在のキャリアに影響を与えた書籍，人，出来事
- 7) 5)の過程での**苦労話・悔しい&うまくいかなかった経験**
- 8) 7)から，**いかにリカバーしたか**

5) 何を原動力として活動をしているか、キャリアの経緯

あの、原動力...正直、今ある原動力は、今の原動力は、皆さんがやってくれと言ってくれてるからだと思います。



A氏

自分がやったことで、世の中が良くなることって何だろうって考えると、「こういうのをやってほしい」、「こういうことをしてほしい」、「こういう取り組みを考えて欲しい」って言ってくれるのってすごい幸せなことだと思っていて。もう今、それをやるっていうことだけが原動力です、...

若い頃はやっぱりそんなこと全然考えてないんですよ。うん。40過ぎてからですかね、こういうことを思い始めたのは。40過ぎて、あと20年で何できんだろうって考えたときに、「多分何もないな」とは思ってたんですよ。で、ただ、ここ5、6年、特に2016年ぐらいからですかね。...「何かやっぱりやらなきゃいけないんじゃないか」っていうことを思い始めたっていう感じですかね。

7) 苦労話・悔しい経験・うまくいかなかった経験

市役所で、すごい学んだんですよね。…何かやろうとすると、色んな人が怒ってくるんですよね。議会だったり市役所だったりタクシー会社とかって。



C氏

あの何か、急に予算を計上して市長が作りたいていう、なんか大して人の乗らなそうな路線を引くっていう仕事があったんですよ。で、なんで怒られたんだろうな、タクシー会社には「タクシーの利用者が減る」って怒られて、議会には「全然事前に説明もないのになんでそんなことやってんだ」って怒られて、で市長には「こんなに大々的にやるんだからもっとPRしろ」って怒られて、なんか三者三様怒られてですね。

あのときは市役所の中の論理が全くわかってないんで、すごく苦労して怒られながら、バスを通しましたと。なので、そっから何か、市役所で何かするときの勘所ってのすごい覚えました。

人材育成研究

どのような人材が
求められているのか

理想人物はどのように
キャリアを形成したか

求める人材と育成の場
は整合しているか

参考となる育成の場は
どのプログラムか

精査後

1 2 3 4 5

No.	能力 取組み名 [主催者名]	豊富な知識	事例収集力	知識探求心	課題発見力	伝達力	人間関係構築力	道筋策定力	発想力	調整力	ファシリテート力	社会貢献への意欲
1	MM (モビリティ・マネジメント) 技術講習会 [計量計画研究所]	4	5	4	4	4	4	4	5	4	3	5
2	日本モビリティ・マネジメント会議 [日本モビリティ・マネジメント会議]	5	5	4	4	5	4	4	4	4	3	5
3	再生塾・基礎編セミナー [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	4	5	3	4	4	4	4	4	4	3
4	再生塾・議員セミナー (地域公共交通政策セミナー) [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	5	5	3	4	4	4	4	4	4	3
5	再生塾・議員セミナー (地域公共交通政策セミナー (ローカル鉄道編)) [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	5	5	3	4	4	4	4	4	4	3
6	再生塾・技術セミナー [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	5	5	1	5	4	4	4	4	4	3
7	再生塾・アドバンスドコース [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4
8	再生塾イブニングセミナー [持続可能なまちと交通をめざす再生塾]	5	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1
9	地域公共交通塾 [株式会社バイタルリード]	4	4	2	4	2	2	3	3	2	1	2
10	MaaSの部屋 [JCoMaaS]	4	4	4	3	2	3	3	4	3	2	3
11	JCoMaaS研究会 [JCoMaaS]	4	4	4	4	3	3	3	4	3	3	4
12	エッセンシャルセミナー [日本交通計画協会]	5	5	5	4	2	3	4	4	2	1	5
13	「都市と交通」実践セミナー (旧:新時代セミナー) [日本交通計画協会]	5	5	4	3	1	3	4	5	1	1	2
14	路面公共交通研究会講演会 [日本交通計画協会]	5	5	5	4	3	3	5	5	2	2	4
15	地域の交通環境対策推進者養成研修会 [交通エコロジー・モビリティ財団]	4	5	4	5	4	5	5	5	3	3	4

No.	能力 取組み名 [主催者名]	豊富な知識	事例収集力	知識探求心	課題発見力	伝達力	人間関係構築力	道筋策定力	発想力	調整力	ファシリテート力	社会貢献への意欲	
16	地域バス交通活性化セミナー [交通エコロジー・モビリティ財団]	2	5	4	4	2	4	4	4	4	2	4	
17	交通まちづくり [全国建設研修センター]	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	
18	運輸政策セミナー [運輸総合研究所]	5	5	5	4	3	3	4	4	3	2	4	
19	Qサブネット勉強会 [地域と交通をサポートするネットワーク in kyushu]	5	5	5	5	4	5	5	4	5	5	5	
20	地域公共交通人材育成研修 [国土交通省北海道運輸局]	5	2	4	1	4	4	5	2	2	2	4	
21	計画策定セミナー [国土交通省北陸信越運輸局]	4	2	5	2	3	3	5	5	3	3	5	
22	基礎知識習得セミナー [国土交通省北陸信越運輸局]	5	5	5	2	3	3	5	5	3	3	5	
23	地域公共交通セミナー [国土交通省中部運輸局]	4	3	5	3	3	3	5	5	3	3	4	
24	交通実践セミナー [国土交通省中国運輸局]	未回収											
25	地域公共交通セミナー in 四国 [国土交通省四国運輸局]	5	4	4	3	4	4	4	5	3	3	4	
26	地域公共交通活性化セミナー [国土交通省九州運輸局]	5	4	4	4	3	4	4	4	3	3	4	
27	専門課程 街路・都市交通施設 [ストリートデザインと交通まちづくり] [国土交通大学]	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
28	専門課程 総合交通体系 [地域モビリティ戦略] [国土交通大学]	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
29	専門課程 道路計画 [機能・活用] [国土交通大学]	未回収											
30	専門課程 地域公共交通 (I期~III期) [国土交通大学]	未回収											
31	公共交通勉強会 [兵庫県土木部交通政策課]	4	4	3	4	1	1	3	3	3	1	4	

2.研究開発成果

⑬サービスの社会実装に向けた人材育成

人材育成研究

どのような人材が
求められているのか

理想人物はどのように
キャリアを形成したか

求める人材と育成の場
は整合しているか

参考となる育成の場は
どのプログラムか

精査後

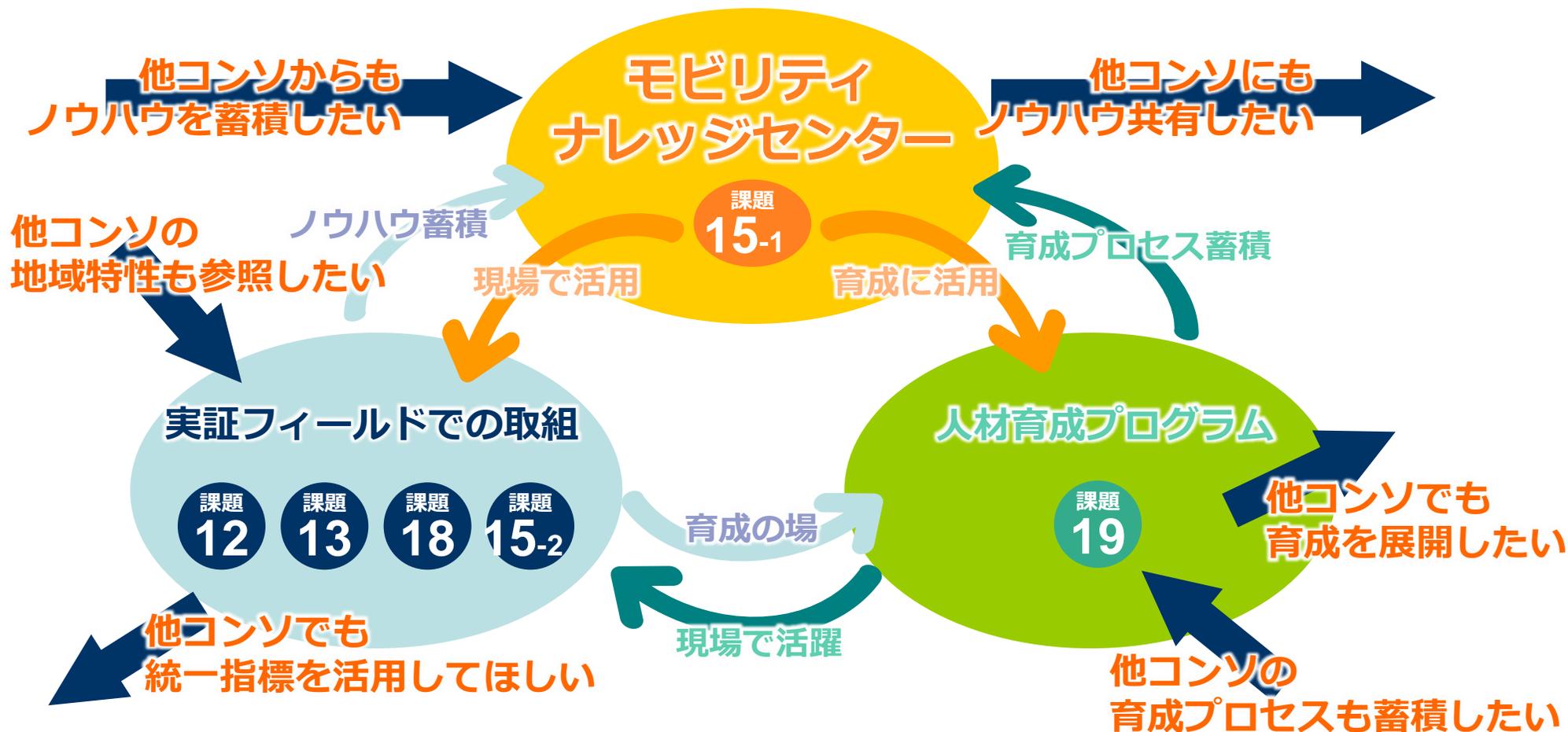
1 2 3 4 5

No.	能力	豊富な知識	事例収集力	知識探求心	課題発見力	伝達力	人間関係構築力	道筋策定力	発想力	調整力	ファシリテート力	社会貢献への意欲	
16	地域バス交通活性化セミナー [交通エコロジー・モビリティ財団]	2	5	4	4	2	4	4	4	4	4	2	4
17	交通まちづくり [全国建設研修センター]	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4
18	運輸政策セミナー [運輸総合研究所]	5	5	5	4	3	4	4	3	2	4		
19	Qサポネット勉強会 [地域と交通をサポートするネットワーク in kyushu]	5	5	5	5	4	5	5	4	5	5	5	5
20	地域公共交通人材育成研修 [国土交通省北海道運輸局]	5	2	4	1	4	4	5	2	2	2	2	4
21	計画策定セミナー [国土交通省北陸信越運輸局]	4	2	5	2	3	3	5	5	3	3	5	
22	基礎知識習得セミナー [国土交通省北陸信越運輸局]	5	5	5	2	3	3	5	5	3	3	5	
23	地域公共交通セミナー [国土交通省中部運輸局]	4	3	5	3	3	3	5	5	3	3	4	
24	交通実践セミナー [国土交通省中国運輸局]												未回収
25	地域公共交通セミナー in 四国 [国土交通省四国運輸局]	5	4	4	3	4	4	4	5	3	3	4	
26	地域公共交通活性化セミナー [国土交通省九州運輸局]	5	4	4	4	3	4	4	4	3	3	4	
27	専門課程 街路・都市交通施設 (ストリートデザインと交通まちづくり) [国土交通大学校]	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
28	専門課程 総合交通体系 (地域モビリティ戦略) [国土交通大学校]	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
29	専門課程 電路計画 (機能・活用) [国土交通大学校]												未回収
30	専門課程 地域公共交通 (I期~III期) [国土交通大学校]												未回収
31	公共交通勉強会 [兵庫県土木部交通政策課]	4	4	3	4	1	1	3	3	3	1	4	

網羅的に能力を
育成できる取組み

3. 今後の方向性

- 実証フィールドの不足（ノウハウ蓄積・類型化・指標構築等を進める上で）
- 検証機会・人材の卵の不足（人材育成を展開していく上で）



本報告書には、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の下で推進する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期／スマートモビリティプラットフォームの構築」(研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)(NEDO管理番号：JPNP23023)の成果が含まれています。